

今週の実践宿題

来週までに、Claude を実際に使ってみましょう

教えるAI: Claude / レベル: 中級者 / 年齢層: 社会人 / 使い方: マーケティング担当 / 授業時間: 90分 / スタイル: シンプル

🎯 今日のゴール

この宿題は「知った」を「使えた」に変えるためのものです。

3つの課題、それぞれ10～20分で終わります。

やってみて感じたこと・うまくいかなかったことも、来週持ってきてください。

課題1 | 「ふわっとお願い」と「ちゃんとお願い」を比べてみる

目的

お願いの仕方によって、返ってくる答えがどれだけ変わるかを
自分の目で確認する。

頭で「なるほど」と思うより、実際に見た方が100倍わかります。

手順

1. スマホでもパソコンでも Claude を開く（会員登録は済んでいる前提です）
2. まず「ふわっとしたお願い」を送る。例: 「SNSの投稿を書いて」
3. 返ってきた文章をスクショか、メモアプリにコピーしておく
4. 次に「ちゃんとしたお願い」を送る。例: 「あなたはインスタグラムのプロです。30代女性向けに、春の新商品コスメを紹介する投稿文を150字で書いてください。明るくて親しみやすいトーンで。」
5. 2つを見比べて、どこが違うかをメモしておく

所要時間

約10～15分

提出物

「ふわっとしたお願い」と「ちゃんとしたお願い」の両方のやりとりを
スクショ or テキストコピーで保存して持参してください。

「どこが変わったか」を一言でメモしておくとか来週の話が早いです。

やってみよう

自分の仕事に近いテーマで試すと、より実感がわきます。

「商品紹介」「お知らせメール」「アンケートの選択肢」など、日常業務のどれかを1つ選んでやってみましょう。

課題2 | 実際の業務に使えるお願い文を1つ作る

目的

授業で学んだ「良いお願いの型」を、自分の仕事に当てはめる練習です。

「なんとなくわかった」を「自分の言葉で作れた」に変えることがゴール。

手順

1. 今週の仕事で「これ、文章作るの面倒だな」と思った場面を1つ選ぶ
2. 授業で紹介した型を参考に、お願い文を自分で書いてみる。型の例: 「あなたは〇〇のプロです。△△向けに、□□について◇◇字で書いてください。トーンは〜〜で。」
3. Claude に送って、返ってきた文章を確認する
4. 気に入らない部分があれば、追加でお願いしてみる (例: 「もっと短くして」「もう少し柔らかい言い方で」)
5. やりとり全体をメモアプリかメールに保存しておく

所要時間

約15〜20分

提出物

自分で作ったお願い文と、Claude が返してきた文章のセットを持参。

「実際に使えるか」「どこがイマイチだったか」も一言メモしておくと来週のフィードバックに使えます。

ここがポイント

最初から完璧に作ろうとしなくていいです。

「一回送って、返ってきたのを見て、もう一回お願いし直す」

このくり返しが、使い方の上達につながります。

課題3 | 「Claude に向かない仕事」を1つ見つけてくる

目的

Claude が得意なことだけでなく、苦手なことも知っておく。

「なんでもできる」と思っていると、使いどころを間違えます。

できないことを知ることで、使えるシーンがより明確になります。

手順

1. 自分の業務の中から「これもClaudeに頼めるかな?」と思う仕事を1つ選ぶ
2. 実際にClaude にお願いしてみる
3. 返ってきた結果を見て「使える」か「使えない」かを判断する
4. 「使えない」と感じた理由を一言でメモする。例:「最新の競合情報が含まれていなかった」「数字が間違っていた」「うちの会社特有の話が全然反映されていなかった」など
5. 「使える仕事」と「使えない仕事」の両方を来週話せるように整理しておく

所要時間

約10～15分

提出物

試してみたお願い内容と、返ってきた結果のメモ。

「使える」「使えない」どちらでも構いません。

正直な感想を持ってきてもらう方が、来週の授業が盛り上がります。

注意

Claude が出した数字・固有名詞・最新情報は、そのまま信じないでください。

特に「競合他社の売上」「最近のニュース」などは、内容が古かったり

間違っていることがあります。大事なことは必ず別で確認を。

来週の授業で行うこと

3つの課題で気づいたこと・うまくいかなかったこと、どちらも共有してもらいます。

「失敗した」も大歓迎。むしろそっちの方が勉強になります。

- 課題1 | ふわっとお願い vs ちゃんとお願い、比べてみた結果の共有
- 課題2 | 自分で作ったお願い文のフィードバック（みんなで見て改善）
- 課題3 | 使える仕事・使えない仕事の発表と、判断基準の整理

ここがポイント

提出物は「きれいにまとめたもの」でなくていいです。

スクショ1枚、メモアプリのコピーで十分です。

「やってみた」という事実が、来週の授業を10倍使いやすくしてくれます。